



10月11日(木)、上宮田小の5年生が、間口漁港を見学しました。彼らは、年間を通して、松輪サバについて学習しているので、この日の見学となりました。

お目当ての松輪サバは、残念ながら、水揚げがありませんでした。昨日も、5〜6本しか上がっていませんでした。ここ数年、サバの不漁が続いていて、サバ漁をやめてアジやキンメにかえる船も出ています。

サバが見られず残念でしたが、漁師さんの一人は、釣れたばかりのキハダマグロと本ガツオを子どもたちに持たせてくれました。また、年配の漁師さんは、釣ってきたマダイを使って、実際に「やはず」で、針を外す様子を見せてくれ、子どもたちから歓声が上がっていました。昔は、赤い糸を針につけて、サバのエサにしたそうで、それでも釣れていたそうです。特大のインダイヤカワハギを釣り上げた釣り人もいて、子どもたちにも見せてくれました。



その後は、漁業協同組合の方が、水揚げから、魚の選別、発泡スチロールのケースへ魚と氷を詰めること、そ



れを築地や豊洲に運ぶまでのことを、分かりやすく説明してくれました。魚の選別は重さで行うそうです。ゴム手袋を使い、魚を直接触らないようにしているそうです。

子どもたちが、漁港につく前に、岸壁付近にエイが悠然と現れました。思わず、写真を撮ってしまいました。

(右の写真)



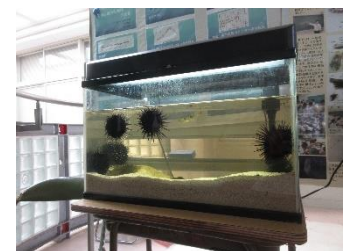
10月19日(金)、初声中学校の福祉文化祭で、ボランティアコースの3年生が、「海に関するボランティア」について、パワーポイントを使って発表しました。

まず、NPO法人「湘南VISION」の方の、講演、ワークショップ行い、「海のゴミの7割は、川から流れてくる」というお話を受けて、6月に、潮風アリーナから一番川の河口(矢作海岸)までをたどったそうです。途中、投棄された自転車をはじめ、多くのゴミを発見しました。海岸でも、ゴミ拾いを行いました。



最後に、学習の結果、海の環境を守るためには、「私たちの生活を見直す」必要があることを、全校の生徒や保護者に訴えました。

校舎2階には、学習の成果が掲示されていました。また、水槽では、8月の「海の教室」で釣ったクサフグが、元気に泳いでいました。もう一つの水槽には、地元で捕まえたウナギもいましたが、残念ながら、砂に潜っていて、頭を半分だけ出していました。



(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所 854-9443 まで